

不登校の未然防止や早期発見・早期対応のために

令和3年度心の教育充実会議（生徒指導連絡協議会）

令和3年7月13日（火）13:30～16:50 京都府総合教育センター北部研修所

昨年度の会議は教務主任を対象に実施しましたが、今年度は小・中学校、府立高等学校とも生徒指導担当教員又は教育相談担当教員を対象に開催しました。「京都府版 不登校児童生徒支援ハンドブック」をもとに、長期欠席（不登校等）の未然防止や早期発見・早期対応についての講義や協議、実践発表をしていただきました。昨年会議に参加していただいた教務主任と生徒指導・教育相談担当が両輪となり、管理職の先生の指導のもとに取組を進めることが期待されます。

また、京都府警察本部少年サポートセンター北部センターより、近年の薬物乱用の状況についてお話しいただき、夏季休業中の生徒指導についても再確認の機会になりました。

講義

「京都府版 不登校児童生徒支援ハンドブック」の活用について
京都府教育庁指導部学校教育課
指導主事 長谷川 良 様



講演

「近年の薬物乱用の状況について」
京都府警察本部生活安全部少年課
少年サポートセンター北部センター



①不登校の捉え方（令和元年10月25日文科省通知）

「学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立すること」「児童生徒によっては、不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在する」ことに留意することが大切です。

②未然防止の視点と早期発見・早期対応のプロセス

未然防止の視点として、「魅力ある学級・学校づくり」「基盤となる人間関係」「学ぶ意欲をはぐくむ指導の充実（生徒指導の三機能を活かした授業づくり）」「安心・安全な学校づくり」が大切です。

また、欠席3日目までの関わりが重要です。連続3日、月3日の欠席が、校内ケース会議立ち上げの目安です。

③組織的な支援モデルと不登校児童生徒への支援

家庭訪問は登校を促すためではなく、「きみのことを大切にしているよ」というメッセージを伝える場です。再登校に向けて学校全体で情報共有しておくことが大切です。

実践発表

「つながりを大切にした取組」
福知山市立川口中学校
教諭 塩見 義樹 様



教室復帰を目指して「別室」指導を充実させるために、ICTを活用してリモートで授業を配信しました。双方向のやりとりで、生徒同士が話しかける場面も見られ、教室へ入れなくても、別室の生徒と教室の生徒が「つながる」ことができました。

不登校であっても、生徒同士の関わりが重要です。また、教師も不登校の生徒とのつながる接点をたくさん持つておく必要があります。回復へのステップには保護者の願いを取り入れることも大切です。

SNSが普及し、薬物の入手が容易になってきます。また、大麻は他の薬物より依存性が少ない等の誤った認識が広まっています。危機感を持って指導する必要があります。

参加者の感想より

- ◇ 生徒の認識として、薬物の怖さを知らなかったのではなく、薬物の知識は深かったということが印象に残った。知っていながら薬物の使用に至ったところに怖さを感じた
- ◇ 「居場所のない子」と非行との関連についての説明があった。薬物乱用を防止するために、知識を教えるだけでなく、学校・家庭・地域に子どもたちの居場所をつくりたい。

実践交流・協議 [参加者の感想]

- ◇ 「学校生活が楽しい」と思える充実した学校、児童生徒が活躍できる場面の設定など、魅力ある学校づくりが不登校の未然防止につながることや、早期発見・早期対応のプロセスを学べた。
- ◇ まず担任として、学ぶ意欲をはぐくむ指導の充実や、望ましい人間関係を築くための学級経営など、できることがたくさんあると感じた。
- ◇ 児童生徒が休み始めた1日目から何らかの「SOSサイン」であることを疑い、本人を気遣う声かけをしていきたい。
- ◇ 初期対応をどのようにするか、「様子を見る」という対応の目的と意味について、協議の時間に話ができた。

